

クラーク・サンダーズ

1 クラーク・サンダーズとメイ・マーガレットが

緑の園の砂利の小道を歩いていました

二人の恋は

つらく悲しい恋でした

2 「ベッドへ ベッドへ」とサンダーズ

「二人が眠る ベッドへ ベッドへ」

「いいえ いいえ それはダメ

ちゃんと結婚するまでダメよ

3 「七人の兄さんたちが

赤々と松明燃やしてやって来て

たった一人の妹が

誰か騎士おとこと寝ている となじるでしょう」

4 「ぼくの鞘から刀を抜き取り

それで そつと掛け金ははずし

誓いをたてて言うがよい

サンダーズを決して中には入れなかったと

5 「ナプキンを取り出して

両の目をしつかり隠し

誓いをたてて言うがよい

昨日からサンダーズには逢っていないと

6 「両の腕にぼくを抱きあげ

ベッドまで運んでくれて

誓いをたてて言うがよい

あの方は決して部屋に踏み込まなかったと」

7 マーガレットは 鞘から刀を抜き取って

それで そつと掛け金ははずし

誓いをたてて言いました

「サンダーズの中には入れていません」

8 ナプキンを取り出して

両の目をしつかり隠し

誓いをたてて言いました

「昨日からサンダーズには逢っていません」

9 両の腕にサンダーズを抱きあげて

ベッドまで運んでいって

誓いをたてて言いました

「あの方は部屋に踏み込んでいません」

10 七人の兄たちが

赤々と松明燃やしてやって来て

「たった一人の妹が

誰か騎士と寝ているぞ」

11 一番目の兄が言いました

「二人は恋仲だったのか」

二番目の兄が言いました

「ずっと前から恋仲だった」

12 三番目の兄が言いました

「二人を引き裂くことは罪なこと」

四番目の兄が言いました

「眠っている男を殺るのは罪なこと」

13 五番目の兄が言いました

「おれが二人を引き裂こう」

六番目の兄が言いました

「そつとしておけ 目をつぶろう」

14 七番目の兄が言いました

「たとえこの俺ひとりでも

.....

この刀で やつの命はいただきますだ」

15 キラキラ光る長い刀を取り出して

藁に突き立て 刃を研いで

サンダーズに ぐさりぐさりと

冷たい鉄の刃を突き立てました

16 サンダーズはピクリと動き マーガレットは

恋人の腕に飛び込んで 眠りました

二人にとつて その夜は

悲しく 長い夜でした

17 二人は静かに ぐっすり寝ました

やがて 夜が明けてきました

マーガレットは やさしく彼にささやきました

「さあ あなた もうお帰りの時刻です」

18 二人は静かに ぐっすり寝ました

やがて 陽がさんと射してきました

マーガレットが 壁ぎわの恋人を見ると

その目はどんより うつろな様子

19 二人とも寝汗をかいて

ベトベトしていると思いきや

それは 体から流れる血

恋人はもう 息絶えているのです

20 「ああ サンダーズ あなたのために

ほかの女ができないことをいたしましょう

七年という間

靴を履かずに暮らします

21 「ああ サンダーズ あなたのために

ほかの女が悪夢と思うことをいたしましょう

七年という間

髪を梳かずに暮らします

22 「ああ サンダーズ あなたののために

ほかの女が馬鹿と思うことをいたしましょう

七年という間

悲しい喪服で暮らします」

23 死体を墓場に運ぶ合図に

吊いの鐘が 町中に鳴りました

メイ・マーガレットがため息ついて つぶやきました

「ああ なんとという悲しい日」

24 床踏^{ゆか}み鳴らして

父親が入ってきました

.....

25 「いとしい娘よ 泣くのはおよし

悲しみは 忘れておしまい

死体を墓場に運んでいって

戻ってきたら 慰めよう」

26 「七人の兄さんたちを慰めて

わたしを慰めても それは無駄

昨夜一緒にお部屋にいたのは

身分違いの者ではなくて わたしの愛する騎士^{かた}でした」

